

小林正人『『景気循環』研究序説

—資本主義経済において景気循環は必然的か—

第2章 非自発的失業の大量発生と資本の矛盾

問題提起

2.3 非自発的失業への対策としての公共原理によって「景気の浮沈とともに人間の能力の過剰利用か使い捨てかを繰り返すような体制から脱却する道」(22項)とはどのようなものか。

選んだ理由

非自発的失業を考える中で改めて、不況で経営が厳しくなった企業=労働者の解雇について疑問に思ったから。

A グループ

過剰生産になっても従事していた人材の雇用は社会的に維持しながら適切に過剰設備を廃棄することで利潤原理による縮小スパイラルの再発を予防するためのシステムを社会に内蔵させること。そうして国民の能力を有効に活用すべきであり、そのためには人材養成や教育訓練の体制を充実させることが脱却する道である。

B グループ

企業間の競争を解雇することによって対策すると、消費需要も減り、失業者も出てしまい、「需要の縮小スパイラル」に入ってしまうので、国民の能力を有効に活用し、日本にしか出来ない製品や技術を開発していくことが脱却していく道である。

C グループ

人間の能力を社会的に向上させ、新製品や新製造技術の創造力を社会的に高め、企業間競争の質を向上させること、また公共施設に対する考え方を生産手段にも適応し、ある程度の過剰を許容することが、利潤原理による縮小スパイラルを防ぐことにつながるというもの。

D グループ

日本は、膨大な低賃金労働をかかえている発展途上国との競争でコスト競争に集中するのではなく、人材養成や教育訓練の体制を充実させ、一億の国民の能力を有効に活用して日本にしか出来ない製品や技術を開発していくのが生き残る道である。